

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信 第81号

身近な地域実践活動に学びながら、ご近所福祉を語り合う ①

2026年度がスタートした。昨年度に引き続き「各地の実践活動事例からご近所福祉を語り合う」を活動テーマに取り組んでいる。これまでの定例研究会で、気になる“ご近所あれこれ”を語り合ってきたことを振り返ってみると、まだまだ、一人一人が努力していくことが沢山あるといった感じである。

1. 一人暮らし高齢者（移動がやや困難）のゴミ出しが気になる
 - * 自助⇒日々分別をして、自宅前に準備しておく
 - * 共助⇒ご近所同士で見守りをしながら支援/中学生等の通学時のV活動/ご近所さんの移動時に運搬をする（軽トラ）
 - * 公助⇒介護認定等による支援範囲
2. 高齢者（高齢世帯）免許証返納者の移動（通院・買い物）が気になる
 - * 自助⇒家族・親族にあらかじめ予定を伝え考慮してもらおう/遠出が難しくなったら自転車の使用、または、健康維持を兼ねて、歩行可能であれば目的を決めて行動
 - * 共助⇒管内のコミュニティ活動組織による、状況把握検討の上、福祉活動事業として運行事業化
 - * 公助⇒自主運行バス/介護タクシー券の活用/福祉有償運送サービス/乗り合いタクシー事業の活用企業等による地域への配車運行及び配達・販売車の配車
3. 一人暮らし高齢者（歩行困難）の災害時の避難が気になる
 - * 自助⇒自宅に移動補助具を用意しておく
 - * 共助⇒世帯調査から、民生委員・町内会長・組長等は日常的に本人を把握し、町内会単位または、さわやかクラブ活動で、常に、「見える化」「わかる化」する心掛け（マップ作成/声掛け運動）
 - * 公助⇒移動補助具の貸し出し制度等を利用する
4. 高齢者（高齢世帯）のご近所さんとのコミュニケーションが気になる
 - * 自助⇒日常生活において、常にご近所に話しかけていく努力/地域の行事への参加の機会をもつ趣味や特技を通じた仲間づくり/回覧板をよく見る
 - * 共助⇒さりげない見守り・安否確認の工夫/組単位で、声掛けの努力し、決して排他的関係にしない地域行事(サロン活動)への参加呼びかけをする
 - * 公助⇒新聞・郵便・牛乳各配達業者等の声掛け、民生委員活動



*今年も、クンシランが咲いた



シリーズ⑧「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を紹介します

協働団体：静岡福祉文化を考える会」とともに、令和6年度の赤い羽根共同募金助成事業により、この10年間にかかるたを配布提供した皆さんに、「かるた活用状況調査」を実施した。

その結果を基に、漫画家 法月理栄様の多大なご支援（イラスト作画）をいただき、「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を作成した。本誌第74号から「シリーズ」で紹介している。

第8回は「コミュニティその3 地域活動の記念誌等に掲載」

これまでの地域活動の記録や記念誌等を発行して、更に、地域住民に、理解と協力を呼び掛ける時に、地域活動やご近所の支え合いを出来る限り、わかりやすく編集していく取り組み。

■進め方

- * 熱い思いで、長年地域活動に取り組まれてきた役員が、これからの地域づくりに期待をして、これまでの地域づくりを記録にまとめたり、活動の節目を記念誌として発行するに当たり、コミュニティ組織内で、前年度に企画提案をし、資料収集作業に取り組む中で「ご近所の支え合い」の重要性を議論し、「かるた」の存在と活用の承認をもとに次年度につなぐ。
- * 役員会において、「編集委員会」を設置し、議論を重ね、「かるた」の誕生、そして、若者の地域参加の意義を理解し学び合う場を設けながら、編集作業を具体化する。
- * 記念誌等の内容に硬さのあるページを読みやすくするため、空間を「かるた」の挿入を試みる。

■楽しさの工夫

- * 掲載する「かるた」を選ぶ作業の過程で、「私たちの地域のご近所福祉」を学び合う場として「かるた」を活用し、相互理解に努める。「読み札」と「絵札」を組み合わせる。

「協働団体:静岡福祉文化を考える会30年検証誌・静岡発 福祉文化の創造軌跡30年 一草創期からご近所福祉検証期を辿る」に寄せられた意見を紹介します ②

本会は、「協働団体:静岡福祉文化を考える会」が、これまで30年間の福祉文化実践活動を検証する「30年検証誌」(200部)の編集作業に、2025年度活動として協力し、このたび出来上がった。

配布した県内外の関係者から寄せられた「意見・メッセージ」を本誌第80号からシリーズで紹介中。

- * 貴会創設以来、変化する時代に的確にその時代の課題(子ども・障害児者・若者)を取り上げて、「ご近所福祉」の必要性を地域社会に働きかけてきた多くのことを学ばせていただいた。「ご近所福祉」がいかに大切か、「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」(県委託事業)では、その仕組みづくりを積極的に取り組まれたことは意義深かった。若い時から学び合うことの必要性も実感した。尊い学びを30年間続けてきたことを無駄にしない様に、この先も、自分なりに努力をしていきたい。今では、「ご近所の支え合い」も死語となったように感じるが、生(現在92歳)ある限り、これまでの学びを活かしていきたい。
- * 福祉というのは幅広い領域の中で、きめ細かく県民に「福祉文化」を呼びかけて30年の実践活動を今日まで継続していることに敬意を表す。地域のシニアクラブに加入手続きをとったところ、そのあと、解散したとの連絡をいただき失望した。ご近所の支え合いも口では言えても、実践することの難しさがある。
- * 実践あってこそ、取り組まれてきたプロセスを通じて、社会に訴えることができるし、共感を感じる。今や、コミュニティ活動に大切なキーワードであることは間違いない。理論で考察することよりも、こうしたありのままを綴ってこそ、訴える強みがある。「福祉文化」を押し付けにしないで、一人一人がどのように創り上げるかを求めていく「福祉文化」でいいと思う。
- * 30年前に誘われて、発足当時に、「福祉文化」を十分理解することなく、大人の皆さんと必死になって動き回っていたことが、つい最近のように感じる。大学を卒業してからは、距離的にも、職業的にも参加が難しく遠退いていたが、こうして、30年間の数々の活動がびっしりとまとめられた「30年誌」を、私のようなものまで届けていただき感謝する。「ご近所福祉」は、こうして、大人になった私にとっては、あたたかな空気が漂う素敵な言葉として感じ取れる。やはり、地域活動は、こうして長きにわたり継続してこそ、地域社会に訴える力を持っていると感じる。あの時の若かりし頃の自分との出会いや当時の活動内容は、感無量である。改めて、届いた「30年誌」から「福祉文化」の意義を読み取る努力をしていく。
- * 貴会から、いろいろと案内をいただきながら、最近では、諸事情で参加する機会が少なくなりました。当時、若者たちと向き合う研修会等に参加して、元気をいただき感謝している。いくつかの活動に関わっているが、なかなか継続した取り組みが難しい時代に、活動基調に基づき一貫した「福祉文化実践活動」に取り組まれてきたことに敬意を表す。コミュニティの弱体化とともに、住民の意識の格差が広がり、地域課題解決への取り組みも容易ではなくなっているが、「福祉文化」という切り口で、語れる環境づくりに努め、相互理解をしていく仕組みづくりの努力は必要である。

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(4/11~5/9)予定含む

- 4/11 4月(第85回)定例研究会開催(2026年度活動確認・ご近所福祉検証)
- 4/25 焼津市V連絡協議会総会出席 第1回代表者会出席(「研究会通信80号」配布)
- 4/28 「研究会通信81号」編集作業開始
- 5/01 「研究会通信81号」発行、印刷配布・メール送信作業
- 5/06 会員宛関係資料配布作業
- 5/07 焼津市V連絡協議会主催 研修旅行参加呼び掛け
- 5/09 5月(第86回)定例研究会開催(ご近所福祉検証)



* ご近所の麦畑が色づいてきました。

本会は、平成28年度から3年間、中学校区を中心に、地域の課題を学び合おうと、住民主体に「地域ささえあい講座」を開講し、延べ614名の地域住民が参加した。この学び合いの成果を、今後、継続的に話し合っていくと、令和元年度に結成して、8年目の活動に入った。身近な地域のことを一緒に語りませんか。

本会(焼津福祉文化共創研究会)への問い合わせは下記をお願いします。

〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 焼津福祉文化共創研究会 平田 厚
Tel&fax054-624-1924 090-4861-4547 E-MAIL: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp



焼津福祉文化共創研究会
QRコード



静岡福祉文化を考える会
QRコード